



駿臺雜話

智集

北



15
1205
4



門 15
1205
卷 4

駿基雜話卷四目錄

智集

燈臺とやとみ
はるかにのり
はるかにのり
はるかにのり
源於委
恭時此云欲
足利家此机
兵法の大才
兵と詭道

島田藏書

運えんきはくはん
鴟鵂きうのまま
青砥あじのつくま松
大佛だいのぜん
楠くすの正まさ成
武田たけ信のぶ敏のぶ系
孫臏そん韓かん信のぶのぶ兵法
不ふ忘わす向むか君きみ

駿基雜話 卷四

大敵介にす

後集新編 卷之四 目録

大敵介にす

後集新編 卷之四

燈籠とや暗し

三伏の暑もや半過りしと落人すすもくらくら後集
の菴もさやひまらふおろし 秋の朝も暮る夕日梢の
とまふよ。なれ竹樹露すしく。他の芙蓉もあやま。やふ
とやも思ふし。あやま折し。やまも。話あやま。あやま
句欄もあまも。詩あやま朗誦し。あやま。あやま。あやま
えあやま。あやま。あやま。あやま。あやま。あやま。あやま
あやま。あやま。あやま。あやま。あやま。あやま。あやま
て。あやま。あやま。あやま。あやま。あやま。あやま。あやま

燭をさしきつりやむかひの病ゆやむかひのやう〜燭臺とたし
 て世俗の競ひ_{（せぞく）} 燭臺とや晴〜とつかりのやうの事には
 中びともいひはれなくもむかひの事やむかひの事やむかひの事
 と其もやむかひの事やむかひの事やむかひの事やむかひの事
 一は但我等の思_{（ぶ）} 思やむかひの事やむかひの事やむかひの事
 在_{（あ）} 通而末諸遠といふ事もあつたにききぬ人よん
 と志をくまをけりむかひの事やむかひの事やむかひの事
 むかひの事を射る若た的の事〜忘〜とある事のものやむかひ
 事とあつたやむかひの事やむかひの事やむかひの事やむかひの事

顔くも何〜と依る種〜。亦〜を聞て。〜其す
 むかひの羅大_{（ら）} 鴿林玉露と悟道といふ尼の住や
 畫日尋春不見春。苦鞞_{（く）} 踊遍隴頭雲。歸來笑熱梅花嗅。
 春在枝頭已十分。

昔もたのち、夜もなきよおつた人よ。むかひの山
 野は春と尋らばして。春と尋らばして。宿の梅、むかひの事やむかひ
 の事やむかひの事やむかひの事やむかひの事やむかひの事
 とむかひの事やむかひの事やむかひの事やむかひの事やむかひの事
 以外の手やむかひの事。たやむかひの事やむかひの事やむかひの事
 折入〜とありて。王極未見〜はれぬ。之秦は豪傑やのふき〜

卷之四

とわあゝらしてしやうわんくゝん志多まけ家の見事
 かいふとる家人の家とくくくわいしや聞訓おまに
 ちうく。是とくやく子初わんくく。其家まけ名とまの
 せく毎らま。聖日其家まけとるせく。汝出まけ何おくも
 併紙一多れすやわん今君ねれとわくもきけりおや事
 ちくまやう。わんにやん中なるやいもまけ。は始とわん
 中辞退志とれ。再とくまけくけよとわくさけ中よ。まけ
 やまの月とすまけく。父の配分のすまけと一紙の者や
 年わんいやく海ふたい。其若々實の事とけけま。能人まけも
 と多くあ。野ふたいやくわん。河聴くたのと相子の務ま定よりい。

其作事如くくくくはりや。彼らと下役人の今ま。其手に
 わんは薄業とくくせくぬすあ。とるまけく。行
 とまけく。君まけく。まけ。其。聴わやまけく。多
 ちまけく。殘念たま。まけ。年ま。まけ。今文ま。貴
 やまけ。其配分や。其働く我邊を謝まけとるく。自分
 の金法とわん。其まけく。まけ。まけ。其まけく。用務ま
 已。威まけとけの。已。邊失とわん。我と常に晦ま。處
 明と術まけと。家とまけ。處ま。智とまけ。其まけ。まけ。て
 私やう。識ま。古今にまけ。其明智とまけ。今ま。まけ。ま
 てけ。後と考ら。燭其ま。まけ。まけ。まけ。まけ。其

明かのはり... 若くは道と聞ゆ...
おき... 娘して...
其の...
物...
くら...
む...
と...
と...
す...
各感...
わ...
名...
名...
名...

運うん交かうのは信しん

さ... 運交の信...
結... 子路持...
や...
あ...
と...
の...
佛...
大...
ゆ...

る。一月と十分より多し程はわくまに。後より大なる見ゆら。何ぶ
わきく。きく。て。と。か。ち。ら。ず。ま。は。耳。鼻。と。大。き。ふ。に。月。と。小
さ。す。の。以。第。一。の。に。信。と。す。の。と。や。を。と。と。や。韓。非。子。の。お
て。審。比。蘇。頌。の。い。ひ。一。事。に。け。本。偶。人。と。比。以。之。信。と。何。と。や。
わ。り。も。ま。は。ら。く。思。ひ。け。け。多。く。す。や。い。の。曲。禮。の。君。子。不。盡
人。之。飲。不。竭。人。之。忠。以。全。文。也。と。い。ふ。も。を。望。ま。ず。と。ま。る。は。し。
人。の。我。為。杯。酒。と。儀。一。や。と。ま。る。飲。を。と。篤。く。す。の。と。人。の。飲
と。い。ふ。人。の。飲。と。十。分。よ。き。し。ひ。の。ち。よ。お。ち。や。ま。る。と。い。ふ。は。及。て
そ。れ。も。と。ま。る。と。わ。ら。ず。自。わ。ら。ず。と。す。は。及。く。と。自。身。中。も。飲。も
也。陳。の。公。子。完。齊。の。桓。公。の。多。ち。親。を。せ。と。ま。る。一。の。桓。公。甚。家

と。能。く。飲。ま。り。と。盡。と。ま。る。と。わ。ら。ず。と。い。は。せ。と。大。き。と。と。や
け。け。や。い。と。と。と。と。其。盡。味。と。其。衆。と。く。世。に。辭。せ。六
人。の。飲。と。信。と。ま。る。と。也。人。の。我。為。音。同。と。け。す。す。は。して
る。け。や。ち。や。ら。ず。の。忠。や。い。の。忠。と。十。分。よ。頼。む。に
ま。す。と。い。ふ。と。必。ず。し。ひ。の。の。聖。人。易。の。桓。卦。の。象
て。初。九。九。二。求。全。の。心。ゆ。き。や。ま。り。め。後。恒。貞。凶。と。い。ふ
人。の。忠。と。信。と。ま。る。と。也。と。と。と。と。君。中。の。け。ひ。て。人。の。能。と
盡。さ。れ。人。の。忠。と。竭。さ。る。と。て。人。や。培。致。交。を。全。し。す。る。と。也。と
一。國。家。に。改。む。と。い。ふ。も。甚。難。也。と。い。ふ。也。と。い。ふ。も。後。よ。り。と
よ。く。國。は。は。す。と。す。と。も。亦。や。く。神。の。底。と。ま。る。と。い。ふ。と。と。と。と。と。

すゝくすも本は行らんぬと一筋あり。其りらるるぬむ。其の
 てへのころす事ゆかけはすりのほふ。名にしてあけり
 りるるもあはれけり。世は命を厳めて若くはそとせよ
 や。可かきよるはけり。子かみのとせよ。以はささると出
 ちる。騷動せよ。なるかき。易は王用三驅失。前禽とさへ
 天子の獵と不合圍と。網の二面をわき張る。一面を前禽
 のよき。ちち地をさす。其とて改事のおりや。や。あや七八
 分。分けて二と分と。地をさす。多とく。子かき。と。請は。い。かく
 彼有。不獲稱。此有不歛穢。彼有遺棄。此有滯穗。伊寡婦
 之利。あは。田畝の事。す。周射。寛政。あ。下。遺利。あ

ら事とちるく。又十方はあされく。其禽と其のなり。其
 前嘗て歴史と考ふ。漢は文帝より。宋は仁宗より。其
 最甚かき。や。好ず。二君。け。寛大より。改事。と
 か。お。や。り。あ。ね。や。り。と。下。穩。り。て。お。る
 弘羊。等。と。ら。ひ。て。威怒。と。十分。は。け。貸。利。と。一。毫。も。遺
 さん。え。よ。く。生。靈。荼。毒。し。民。心。離。叛。て。漢。家。の。危。事。殆。累
 卵。の。上。に。し。仁。帝。は。後。仲。や。り。お。る。王。安。石。と。惠。卿。等。と。用
 て。新。法。を。造。り。て。功利。を。趨。き。よ。朝。野。騷。擾。し。民。心。離。叛。
 本朝の獨あ。の。濫。觴。し。き。り。二。君。と。や。英。明。の。さ。や。り。わ。け

志はけいよけに去るも既狭して子はきやと云ふ故に
抱くやほさるよるも昔より江河と端わやるとして
そのわけをきく入構集みちやもすも六はゆるとの多く
こそとく後漢の節類の安帝よとける書ふと若のほ
江河のあつて易遊くは犯とて古今不易其名言
とて申してさやあつたはらとてゆへ一向は寛大なる
うやすめといふ中もわらひと科條と殺罪しては令
頗苛なると思むといふことやよと寛大なるや
やすことと何よりと事やうとと嚴急よすと貴
多し大なる泰平の世と民俗極情は流と驕奢と好す

抑々今を治るよとてとすともやうに治る易とて
いふと舊弊除くべきやうは必改革と革めは令と嚴
あつて民の耳目を新よすと治るよ民と可其樂成不可
其謀始やと民とおぼしめて例をの利病と云ふ
多し私の利害とのと出やする故よ其の此治やと己の務
よわい者を母と衆務競起く矣然もまらうなる故
う。古より明智の人もさうも少くも拘らるる。其功を
物々相違は畢竟天下の利とかならぬ。お中々よ下安堵
あつて治るよに治るよのこも此暇とてとらひ遠き
と野事の明やうにさうもなるといふ小智は盡し人死

きりやわらぬむり。鄆の子産。鄆回の政をせり。大。舊作の襲
と改む。しやき部。や。車。腋の驕を禁。田廬。別。と。や
し。た。富。人。お。き。も。と。と。玉。服。と。は。獨。よ。く。し。く。ち。其。衆。の
意。美。す。の。回。た。あ。く。く。取。と。う。鄆。伍。り。ぬ。せ。し。ま。
さ。は。行。ま。禦。人。あ。ま。う。為。よ。彌。く。く。取。我。衣。冠。而。褚
之。取。我。回。疇。而。伍。之。孰。殺。子。産。吾。其。其。之。と。う。と。起。る。せ
し。う。や。も。く。も。は。多。く。強。を。の。凡。や。と。侵。暴。の。害。除。き。し。ハ
亦。彌。く。く。我。有。子。弟。子。産。施。之。我。有。田。疇。子。産。殖。之。
子。産。而。死。難。其。嗣。之。と。う。多。う。ひ。よ。は。た。し。ひ。た。ぬ。や。し。子
舞。と。惠。人。や。り。や。く。孔子。の。語。に。く。其。政。民。と。も。を。た。す。

す。於。事。始。り。し。う。や。も。也。と。は。寛。と。貴。や。わ。ら。民。極。や。る
乃。是。時。を。か。わ。り。せ。し。其。後。改。と。子。大。叔。は。按。り。時。子。大
叔。の。寛。よ。過。む。事。と。あ。と。成。さ。く。と。う。や。り。火。を。烈。を。と。く
民。令。く。畏。る。く。あ。ふ。た。と。く。死。す。は。も。の。と。す。や。り。あ。ら
懦。弱。し。て。民。狎。て。然。る。は。多。く。溺。き。く。死。す。や。り。あ。
け。の。大。多。と。も。事。い。ひ。し。に。は。溝。渠。の。を。と。同。く。う。く。し。
物。と。は。古。の。以。主。賢。相。と。寛。と。切。や。す。や。り。し。や。時。よ。ち。や
極。と。も。用。ひ。せ。し。し。あ。の。あ。よ。寛。則。民。慢。慢。則。糾。之。以。極。
極。則。民。殘。殘。則。施。之。以。寬。寬。以。濟。極。極。以。濟。寬。政
是。以。和。や。孔子。の。語。に。一。偏。や。と。を。及。く。し。ん。

後漢書 卷之四

三

くははば富をばくちとて其のさかまけに。ゆめ行く。
又でなまじしちんくして海よりずおもひ。やいのすいぬ
別ぬ人のおもすしんまもきくのゆもたらわし。其外な
よすよさらばなやわすもたぬすにすまもも。こちにて
事ゆいぬぬまもあはさるゝこちをさやうわこししを
はぬぬもあをぬぬこちをさやうわこしし。
ハチふぬと中かと國家のゆかをさうとすけさぬあるま
也。古より新進の人。材智とわすそさんとも。おもておえ
とか。高次の海防す。はさの代中なまきやわら。其角十
よ二つと着わぬすもわさや。たうとて進効と。たて遠慮

と志き。事の易きゆの思く。能きゆす。さるはば思
のゆよさらすおもひも。貨財と費し人力と耗す
うら甲の甲斐がすすにやるや。ちのさのさる色増
ゆ。ねと求め。凡さして波と生す。忠厚はぬゆ。取ま。
奔競のあり日は長す。ね程も。多し。小利とゆ。さす。國
家の害と貽す。この好まはぬ。いんや。和宗の良法は。策
先代より。用ひ事く。ち下の耳熱く。用ひ。事く。かす
此類とゆ。く。志き。ゆ。す。わ。く。凡。宗の配。率。中。よ。志
は。く。は。を。安。く。な。さ。ハ。唐。庚。存。意。の。海。と。わ。ら。は。く。な。ら。國
家の害も。常よ。民の耳目。は。習。と。守。ら。く。不得。已。よ。此

世は少くも。我世は一種の倭人わがく。そ好くも。其の侍を。れ
 け彼。名利と。以。用寂と。樂く。め。回復。も。ゆ。く。水。
 勝。と。も。も。多。く。う。す。と。も。侍。は。先。高。藤。並。う。爲。
 了。絶。書。と。な。し。く。す。及。多。く。甚。後。伊。賀。も。橘。成。忠。の。拍。
 仍。て。伊。賀。の。廻。り。起。ま。し。く。世。の。中。に。女。志。の。娘。は。通。せ。し。事。
 園。右。麻。子。載。て。其。時。の。所。に。も。う。た。る。も。く。之。と。き。七。世。は
 論。り。ひ。父。の。あ。ら。る。隱。遁。と。し。め。も。名利。と。も。と。さ。く。さ。く。
 よ。と。隱。者。の。標。と。わ。れ。人。の。わ。た。る。さ。も。其。後。侍。部。中。も。佛。法。は
 衆。願。く。詩。の。と。も。く。出。離。と。く。う。す。及。多。く。女。色。は。垂。涎。
 々。く。淫。奔。と。治。る。あ。れ。見。識。の。あ。ら。る。者。さ。も。其。後。侍。部。中。

一限。ら。れ。け。行。我。世。の。あ。ら。る。子。と。も。好。く。取。り。し。事。實。
 と。此。の。書。に。鏡。堂。本。抄。落。す。と。れ。亦。々。け。け。も。亦。々。あ。ら。る。
 と。あ。ら。る。た。り。し。あ。ら。る。あ。ら。る。色。中。に。わ。き。さ。く。侍。部。中。そ。も。ハ
 世。に。流。弊。の。あ。ら。る。て。其。世。に。若。く。す。と。は。好。美。の。さ。も。少。く。聞。
 は。世。に。さ。ら。す。あ。ら。る。中。中。に。伊。勢。源。氏。の。う。り。す。と。は。事。
 弱。なる。男。女。中。に。梅。や。う。て。見。す。あ。ら。き。地。の。淫。乱。と。遊。等。媒。
 とも。女。也。と。あ。ら。る。あ。ら。る。唐。神。家。の。源。氏。物語。と。我。國。此。際。と
 之。れ。と。あ。ら。る。あ。ら。る。定。て。侍。部。の。め。と。は。ゆ。る。よ。ん
 疎。く。結。束。の。あ。ら。る。す。と。あ。ら。る。唐。子。の。あ。ら。る。と。採。り。
 家。臣。の。結。実。と。志。り。也。と。ゆ。と。せ。け。物。落。と。位。教。し。籍。

にかつゆに本もわかとも。たさるる理^り越^こあるすよなんそ^えては。
 中^{ちゆう}中^{ちゆう}も雜念^{ざん}とす。我々よとわらま。いん^{いん}をいん^{いん}とく
 ずと入もしや。いん^{いん}悔^け意^いと。う^うや。ん^んとすす^す入^入く^くす^す
 船^{せん}わ^わら^らす^すと^と思^しは^は。朝^あ中^{ちゆう}と^とわ^わら^らす^すと^と思^しは^は。今^{いま}の^の一^{いつ}念^{ねん}に
 よ^よも^もの^のく^く多^たら^らよ^よす^すか^から^らや^やい^いん^{いん}見^{けん}と^とお^おわ^わら^らす^すと
 川^{かみ}で^であ^あら^らす^す事^じゆ^{じゆ}の^のい^いん^{いん}に^に求^{もと}む^む。い^いん^{いん}多^たく^くわ^わら^らす^す
 ら^らて^て。本^{ほん}行^{ぎやう}と^とす^すか^から^らき^きや^やい^いん^{いん}松^{まつの}下^{した}福^{ふく}尼^にの^のわ^わら^らす^すや
 い^いん^{いん}と^とい^いん^{いん}と^とい^いん^{いん}世^せと^と治^ちれ^れの^の道^{だう}儉^{けん}約^{やく}と^とす^す
 本^{ほん}い^いん^{いん}の^のい^いん^{いん}。い^いん^{いん}と^とい^いん^{いん}と^とい^いん^{いん}わ^わら^らす^すと^とい^いん^{いん}
 き^き行^{ぎやう}と^とい^いん^{いん}て^て。本^{ほん}い^いん^{いん}の^のい^いん^{いん}と^とい^いん^{いん}と^とい^いん^{いん}

の多^たく^くい^いん^{いん}と^とい^いん^{いん}。い^いん^{いん}と^とい^いん^{いん}の^のい^いん^{いん}。聖^{せい}學^{がく}の^の意^いと
 か^かの^のい^いん^{いん}と^とい^いん^{いん}。人物^{にぶつ}伶^{らう}俐^{れい}の^のい^いん^{いん}と^とい^いん^{いん}。其^{その}い^いん^{いん}と^とい^いん^{いん}の^の理^り
 よ^よあ^あら^らす^すと^とい^いん^{いん}。鉄^{てつ}中^{ちゆう}銚^{しゆう}く^く傭^{じゆう}中^{ちゆう}倭^わと^とい^いん^{いん}。其^{その}い^いん^{いん}と^とい^いん^{いん}の^の理^り
 管^{くわん}中^{ちゆう}と^とい^いん^{いん}。約^{やく}と^とい^いん^{いん}。其^{その}い^いん^{いん}と^とい^いん^{いん}の^の理^り
 穎^{えい}悟^ごを^をい^いん^{いん}と^とい^いん^{いん}。得^{とく}と^とい^いん^{いん}。其^{その}い^いん^{いん}と^とい^いん^{いん}の^の理^り
 秋^{あき}は^はい^いん^{いん}と^とい^いん^{いん}。其^{その}い^いん^{いん}と^とい^いん^{いん}の^の理^り
 斐^{はい}と^とい^いん^{いん}。女^{によ}色^{しき}は^はい^いん^{いん}と^とい^いん^{いん}。其^{その}い^いん^{いん}と^とい^いん^{いん}の^の理^り
 妙^{めう}は^はい^いん^{いん}と^とい^いん^{いん}。其^{その}い^いん^{いん}と^とい^いん^{いん}の^の理^り
 も^もい^いん^{いん}の^の理^りと^とい^いん^{いん}。其^{その}い^いん^{いん}と^とい^いん^{いん}の^の理^り
 喜^きと^とい^いん^{いん}。續^{じく}と^とい^いん^{いん}。其^{その}い^いん^{いん}と^とい^いん^{いん}の^の理^り

志の付しつや君子と人としてとくをすくまや聖人と
の別なり。病も洗滌するや一つの道を得てはすくまはれど
そまらぬの巻中の一節をいひやせまらぬはやわらう
やまらうすまらぬはやわらう。よきやまらぬはやわらう又云
言語飲食よりけしけしはひかへはる。いかにわらうとまら
ぬはすまらぬ。いかにわらうとまらぬはすまらぬ。いかに
わらうとまらぬはすまらぬ。いかにわらうとまらぬはすまらぬ。
いかにわらうとまらぬはすまらぬ。いかにわらうとまらぬはすまらぬ。

もろくやまらぬはすまらぬ。いかにわらうとまらぬはすまらぬ。
いかにわらうとまらぬはすまらぬ。いかにわらうとまらぬはすまらぬ。
いかにわらうとまらぬはすまらぬ。いかにわらうとまらぬはすまらぬ。
いかにわらうとまらぬはすまらぬ。いかにわらうとまらぬはすまらぬ。
いかにわらうとまらぬはすまらぬ。いかにわらうとまらぬはすまらぬ。
いかにわらうとまらぬはすまらぬ。いかにわらうとまらぬはすまらぬ。
いかにわらうとまらぬはすまらぬ。いかにわらうとまらぬはすまらぬ。
いかにわらうとまらぬはすまらぬ。いかにわらうとまらぬはすまらぬ。
いかにわらうとまらぬはすまらぬ。いかにわらうとまらぬはすまらぬ。
いかにわらうとまらぬはすまらぬ。いかにわらうとまらぬはすまらぬ。

多のやうに關を據りて後世に子多る若此法やするも
さきや焼死に大長やうとも異國へ今と後せし事や
材織暗弱思ふやうに多る其子維新源島に柔
少くも鳥の羽青くおとほきく怒りけり天下の人
係りしも家法嚴やうにして子才驕泰やうなる
やま焼死の念佛宗とやうなる也其作中重臣の若長や
勇壯やうにわまもやうに優柔不剛ありて材力弱け
きは將率八運策決機に累やうに士卒八先登陷陣の膏
やうにさきけと徳女忠清う士大将うていりや振舞
くも維新と同くやうにさきけの人も其時の人たはもたき

よや物事せしやうに又統後貞能と清盛並に此寵臣
やく千原金造の時を意氣揚く多うにや永年中事家
安徳帝と奉去く西海に赴く折しも貞能出陣し凱
旋せし途申やうに車駕に出合ふに御と引ちて於
一師にやうに所の並下やうにや事家の海と並く西國に
し平家家の勢日盛定まるとり危亡に瀕きとんく又
逃去く頼朝は入陣肥後入道や稱し其後長行源氏
の世ややうにや徳盛もやうに於宮別當や書藏人
よしとわたりやうに頼朝も周く乞降し或は一合と助
けしと抖擻行脚しやうにわたりしわたりし御ははし

後醍醐天皇 卷之四

神のやききよく、取とて...
 後於右馬先番(のりせり)、すも感く侍於義經西側、為の時、後於
 かく番、もくよくすのようといひ多は、番あられそ
 見えあふ事、後よ其事、用へく、園中くめさきく、梶原より
 わけけらき、十二歳と御あやま、後、法西の追付使より、中
 内遠来むらひらかた、御察此きり、そのゆく、十世の者、よ
 初のやちやま、如安の圖、三才、
子孫、
中、
初、
父の治、
初、
父の治、
初、
父の治、
初、
番、妹とらとらとら、相見、て、園中、下向、けられ、を、京

けより彼御親、あめく、た、い、ふ、も、
十、此、す、人、
若、御
兼、川、や、く、と、き、事、中、
あ、の、
い、も、
い、は、
番、
親、
親、
即、
御
さ、も、や、も、人、と、
右、
馬、
殿、
の、
石、
橋、
は、
ゆ、
ら、
さ、
ま、
ら、
ん、
と、
収、
め、
ら、
れ、
ま、
す、
を、
景、
岡、
を、
中、
り、
て、
さ、
ら、
く、
い、
つ、
り、
使、
と、
番、
も、
と、
い、
け、
ら、
れ、
り、
し、
は、
れ、
た、
思、
ひ、
う、
け、
を、
か、
け、
ら、
れ、
り、
し、
は、
あ、
ま、
の、
し、
せ、
く、
此、
ハ、
御、
と、
親、
も、
た、
の、
ま、
が、
く、
い、
く、
内、
知、
は、
付、
く、
疎、
畧、
と、
あ、
ま、
さ、
ら、
れ、
り、
は、
と、
い、
や、
ら、
む、
ら、
の、
番、
多、
年、
の、
石、
人、
も、
今、
も、
さ、
ら、
く、
あ、
り、
し、
ら、
む、
わ、
き、
は、
あ、
り、
し、
ら、
む、
十、
年、
ま、
及、
ひ、
と、
ま、
か、
ら、
し、
と、
一、
人、
も、
あ、
ら、
ず、
は、
、
中、
さ、
ら、
し、
び、
は、
若、
き、
も、
あ、
ま、
く、
し、
は、
多、
く、
あ、
ま、
を、
あ、
ま、
け、
れ、
ら、
し、
し、
ら、
ら、
む、
こ、
う、
の、
茂、
の、
番、
を、
い、
は、
れ、
た、
し、
ら、
り、
案、
を、
あ、
ら、
せ、
り、
し、
ら、
む、

神皇正統記 卷之四十一 上
七
七

まはゆゝハ、蘇するまゝに、蘇つて、何れも、
ハ、重衡の事、中へ、結ぶ、其、身、子、妻、あ、て、生、捕、ま、り、と、さ、う、て、
耻、辱、よ、わ、ら、し、め、ら、れ、し、縁、金、よ、因、ま、り、何、れ、も、宴、會、の、席、よ、降、り、
艶、女、よ、款、待、し、ま、り、し、何、れ、も、敬、衛、の、方、に、行、き、
も、妻、よ、遠、逝、ま、す、と、夫、夫、の、す、ま、い、ま、す、と、わ、ら、し、め、ら、れ、
妻、中、に、志、す、と、し、ま、り、恥、す、と、し、ま、り、父、令、と、し、ま、り、
ち、あ、ら、の、大、佛、を、燬、し、事、と、自、ら、も、大、き、な、罪、惡、を、し、
や、ま、り、し、鐘、舎、中、に、頼、朝、の、あ、ら、も、陳、謝、し、
中、に、法、師、と、遠、逝、し、て、ま、け、ま、り、し、何、れ、も、
と、と、罪、障、懺、悔、の、為、と、し、ま、り、し、何、れ、も、
罪、障、懺、悔、の、為、と、し、ま、り、し、何、れ、も、

妻、中、に、遠、世、松、永、彈、正、の、ゆゑ、に、ま、り、し、大、佛、を、燬、し、し、信、長、
の、糧、粟、中、に、ま、り、し、大、眾、と、思、は、れ、し、何、れ、も、松、永、の、妻、
好、義、長、を、弑、し、光、原、院、殿、と、し、何、れ、も、奉、行、し、大、逆、罪、を、し、
何、れ、も、之、の、人、に、ま、り、し、何、れ、も、彈、正、と、し、ま、り、し、
志、す、と、し、鳴、呼、佛、法、に、人、を、毒、惑、す、事、何、そ、あ、り、し、
何、れ、も、寛、文、の、時、に、松、平、故、伊、豆、と、信、長、の、時、に、
何、れ、も、金、仙、と、し、ま、り、し、何、れ、も、信、長、の、時、に、
何、れ、も、天下、を、利、益、せ、し、ま、り、し、何、れ、も、
何、れ、も、其、卓、織、傳、に、古、今、の、傑、出、し、し、
創、業、以、後、文、明、日、よ、開、き、し、何、れ、も、

後、世、松、永、彈、正、の、ゆゑ、に、

其、

伊豆も善政多き中、始く上座去りて天下に殉死を禁じ、諸
 國に人質をやち、大佛と稱し、誘ひ殺す。此を善世中も大慈量
 此をよひ侍りて、殉死と稱せしむる。此を善世の後世に
 害を除き、人質をやめしむる。此を善世の患をす。此
 大佛と稱し、誘ひ殺す。此を善世中も大慈量と云。天下後世
 よあはれく大功徳ありや。此を善世の時伊豆も善政多き中、
 諸執政の事も至明ありて、法侯法役人を討て、私の
 事やちや。私に怒や。此を善世の時伊豆も善政多き中、
 其威令より行しむる。此を善世の時伊豆も善政多き中、

身持も、此の時伊豆も善政多き中、
 のに已。控柄と云。下とわら。此を善世の時伊豆も善政多き中、
 威勢より。此の時伊豆も善政多き中、
 争て言と。此の時伊豆も善政多き中、
 争て言と。此の時伊豆も善政多き中、
 周公此節。此の時伊豆も善政多き中、
 よの。此の時伊豆も善政多き中、
 今。此の時伊豆も善政多き中、
 此。此の時伊豆も善政多き中、
 此。此の時伊豆も善政多き中、
 此。此の時伊豆も善政多き中、

幸なく。佐候一、度一、賊壘へ向ふ。中、初建定より、さへ
 およすの町に。某。本陣中、鐘と撞らる。その鐘相圍
 の法、其處おけなかり。今、おきり、金鼓の音、月と鐘
 けり。某、おきり。今、おきり、賊方の者。又、馬鹿、お
 下、おきり。鐘と撞く。我、おきり、鐘と撞く。おきり、撞
 本、おきり。我、おきり。又、おきり。必、撞本、おきり。
 今、おきり。鐘、おきり。おきり、撞、おきり。おきり、おきり。
 鐘、おきり。おきり、おきり。おきり、おきり。おきり、おきり。
 徒、おきり。おきり、おきり。おきり、おきり。おきり、おきり。
 撞、おきり。おきり、おきり。おきり、おきり。おきり、おきり。

東鑑巻之四

廿九

志、おきり、おきり。中、おきり、おきり。おきり、おきり。
 志、おきり、おきり。おきり、おきり。おきり、おきり。
 念、おきり、おきり。おきり、おきり。おきり、おきり。
 後、おきり、おきり。おきり、おきり。おきり、おきり。
 初、おきり、おきり。おきり、おきり。おきり、おきり。
 江戸、おきり、おきり。おきり、おきり。おきり、おきり。
 在、おきり、おきり。おきり、おきり。おきり、おきり。
 今、おきり、おきり。おきり、おきり。おきり、おきり。
 御、おきり、おきり。おきり、おきり。おきり、おきり。
 おきり、おきり。おきり、おきり。おきり、おきり。

幸ふの由と覺ゆる。けとらるるは第一中中。及んば
 ごとくや。春時感して。けとらるる。即ちその
 決断する。但某今と多く其知をきし。即ちその
 こと。別恩賞と行なはる。後と年報も初や。稀
 如く。松原も軍や。と我。けとらるる。古き物語
 にも。春時此の由。其後考へて。けとらるる。一
 又恩威ゆる。けとらるる。其後謀
 けとらるる。遺利とて。成る。

依りて。政と新。けとらるる。けとらるる。人
 けとらるる。御。とて。五。此。執。代
 安。と。春。功。世。春。時。
 賢。明。や。ら。に。新。ゆる。と。思。ひ。は。ら。高
 位。と。脱。履。志。く。浮。屠。と。由。一。做。作。と。あ。の。下。情。と。あ。る。と。
 一。考。物。の。事。や。けとらるる。と。あ。の。下。情。と。あ。る。と。
 人のいふ事。其。所。宗。廟。社。稷。の。事。き。は。り。自。ら。佛
 ち。逃。ぎ。做。行。と。業。と。する。事。や。わ。る。者。君。臣。と。械。治
 體。と。考。す。人。を。けとらるる。人。を。けとらるる。其。治。規。模
 を。小。し。く。考。す。昧。る。者。也。春。時。と。あ。の。下。情。と。あ。る。と。

人。わしは其不嫌余此人物と考るに。よ下をもよすくた
多故人なり。是く但建國のくわわある此人材幕下。那
集まや。この血氣骨牌の人とくわく。けきも粗暴云識
皆降灌。下あくは其仲。名山。皇忠を。勇力世すし。其此
壯士とい。えり。や。や。志操潔白。少て。きとわく。室
の人也。世。和。や。並。移。ら。げ。その。倫。は。也。梶。原。の。魏。よ。わ。ひ
一。時。折。文。と。く。陳。謝。其。や。い。一。と。會。忠。一。生。偽。と。い
任。今。又。折。文。よ。及。之。者。や。や。や。け。さ。や。一。も。頼
朝。も。疑。よ。の。を。梶。原。も。怒。と。如。と。是。中。く。や。を。忠。信
よ。下。の。感。字。す。れ。す。以。志。と。く。其。と。己。の。考。は。伐。ら。ず。人の。四

と教。之。は。あ。け。く。寛。厚。長。志。此。氣。象。や。ん。わ。く。と。く。高。時
將。の。中。に。求。る。よ。少。き。似。し。る。人。も。や。う。い。ふ。事。も。あ。り。て。浦。と
同。く。や。茶。後。お。條。の。為。に。あ。は。れ。さ。り。て。せ。い。や。わ。け。き。も
か。も。其。氣。後。も。さ。す。の。は。他。の。と。く。一。き。ハ。い。ふ。事。も。あ。り。て。下
や。う。い。ふ。事。も。あ。り。て。高。時。の。惡。天。道。と。い。ふ。人。も。や。う。い
其。罪。深。く。も。作。り。あ。り。て。泰。時。が。う。せ。れ。お。條。家。に
滅。び。し。る。高。時。の。何。と。行。は。れ。し。し。を。田。樂。入。道。と。い
眾。す。へ。し。る。

楠正成

建武中。島。人。物。中。く。く。鐺。紳。家。の。友。藤。房。鞆。鈴。家。の

楠正成とやまゝ興滂のゆするややくいど一人あといふ。孫房と云卿輔弼の長多き。正成と将帥禦侮の長多き。其材の大小と云。正成其材。友房はあまよわら。友房孫馬其練。直言極諫朝廷と信算動下。ゆやくと。孫陽の風鳴といふ。正成もも。正成恢復の功と云。並海下。正成と友房と一。其後國と云。世とのり。正成と其才。國難に死す。其のこ。わら。忠義代。友房は。天下。わら。その。高射。射。正成。比。す。人。わ。る。魚。多。し。正成。も。外。の。云。仍。世。は。傳。ら。る。と。云。は。ん。その。為。人。と。は。け。く。美。事。と。云。は。は。傳。ら。る。は。世。に。楠。家。に。遺。書。と。云。き。ま。く。流。布。す。ら。物。わ。ら。る。お。お。ハ。

後人の偽作や刀之伝。走らるも其志を後世に。其亂の始。一。棟。と。と。く。下。と。川。と。始。終。少。し。も。杜。屈。せ。り。わ。く。其。材。量。の。多。く。あ。り。後。と。思。ひ。を。ら。る。也。孫。は。作。慕。す。ま。き。と。下。一。兼。の。下。名。の。勇。士。や。と。云。時。勢。は。附。く。反。信。と。常。や。し。船。と。と。多。も。と。ら。中。に。楠。家。の。子。孫。累。代。と。く。遺。刻。と。あり。一。門。國。族。心。と。壹。し。力。と。發。せ。名。身。と。と。く。國。に。報。ひ。之。代。の。一。人。と。戴。心。わ。ら。す。と。き。は。古。今。比。類。が。り。多。し。正。成。使。澤。深。厚。や。て。す。く。人。を。孫。と。云。は。り。た。ん。中。と。云。く。か。く。の。こ。く。な。り。之。後。孫。り。世。に。尚。海。す。故。人。推。尊。と。云。法。葛。孔。明。は。比。す。ら。る。友。人。の。ま。も。兵。界。と。云。

とも、眞復と謀りて父子圖すに死するも同一筆に於て、
まゝとされずやまゝとも、孔明の所統を以て、道徳を懐抱し、
功名を遺外し、茅廬を以て居るとせんを以て、
蜀の先づきの之を顧み、過く不待已く出はし、
一躬國趙とよまざる、君臣実のふとく如く、
お處伊尹を以てまゝや、やん古人の稀もあらずし、
いともや功名科中の人もあらず。

後醍醐帝是置は條幸の時、全國其名を徵せし、
もろくもあつて、各々一々、孔明の如く、
おれと、恢復の後も尊氏義貞の如く、
任用

せし、ゆゑ、事とさき、孔明の如く、
わじ、其兵を用らむ。孔明の如く、
割の兵や、いさ、
と用らむ。韓信の如く、
項王の易割とさす。正成に内、
の易弱とさす。韓信を従とせし、
好して、其勇を恐るゝ。孔明の如く、
後醍醐帝、
ハ、
用て、取勝し、
韓信を、

相や給へ給ふは是之君は是之命とけ初と輔けと奉し
下と御と給ふは是之君は是之命とけ初と輔けと奉し
と用て君威を強する事と志すも亦く陳若剛邪と
志らば是之君は是之命とけ初と輔けと奉し
いさや若英と名もやうく貴人そしその驕泰とまはる備
逆と肆りするは是之君は是之命とけ初と輔けと奉し
乞と志すも亦く陳若剛邪と志すも亦く陳若剛邪と
大族の志とも跋扈將軍と名もやうく貴人そしその驕泰とまはる備
多勢と名もやうく貴人そしその驕泰とまはる備
此月和合戦と名もやうく貴人そしその驕泰とまはる備

親族相殺しその毒鬼域のよき甚暴虎狼也と下
よ人倫の道絶えと名もやうく貴人そしその驕泰とまはる備
乞と志すも亦く陳若剛邪と志すも亦く陳若剛邪と
季又代の初と名もやうく貴人そしその驕泰とまはる備
字此時と名もやうく貴人そしその驕泰とまはる備
うけ揚俊基の昭宗と名もやうく貴人そしその驕泰とまはる備
やうと名もやうく貴人そしその驕泰とまはる備
うけ揚俊基の昭宗と名もやうく貴人そしその驕泰とまはる備
の衆人は皆やうと名もやうく貴人そしその驕泰とまはる備
仇世の仇倍と名もやうく貴人そしその驕泰とまはる備

さきほど應仁の後足利家代を譲るべく前後而を承る。其名が勇士寒從飛廉の流しわきまに貴育顯舎の類やまのしり貴恩得先と論するよ及を凡從孫舎と上形此時右回道權のや名が此天をわくしゆはも新おもしろくと松氏山内扇谷支黨のつとて山内と宗室のいけ時越後の上松房顯山内の家世傳く其子顯定よ及て道權と其父道直より扇谷の上松定正の老翁をよ及定正と多子けく顯定や嫡庶の義を辨し親族代を罵しく扇谷は家とあんでて我々の輔相を多く甲斐もわく我と及く謀とて山内の松と奪ひて六支上松不

わよやまけの行はゆきと振く定中や同く顯定はよと松と多子も思ふや其材と庶一と保つよあつたおはゆるもあつてや我國をなされるのよわ我々も文字よあつて倭歌とよめくよれ乱世や得る者人ともいふしおはゆると思ひつて感にすうと世は傳はる時と我合けらあつたおはゆるけ松と世中ら道權敵よあつた時松はよとわくはるよとわくはる慕景集やと彼は自らかたわりの藤原家と其中心は松とのやと其親書よ康正元年のよ藤原の役よあつたよ味方と入るよと口をひらきわくはる

ちてあはれあり討死せらるゝ。其傳は見危授命といふ
し。其子と稱し、一傳子と名付物とん信ちよ、して恭
敬篤實此といふお好むらとやうし。其中に事多し、多し以海を
野ややると學を海とやうとも、そま事際此をくよ、
二んありく、一傳といひ、又一條より多し、一傳の川邊をゆく
も、後傳は、又すくうと、一傳といひ、又一條は、法人同存す、時、好
々の傳、及、月、多し、
ちてあはれあり、信繁、
ちてあはれあり、信繁、
ちてあはれあり、信繁、
ちてあはれあり、信繁、

教を急やわらむ、
勇わらむ、
威武、
や、
ちてあはれあり、
信玄、
ちてあはれあり、

後日諸君、

あつては強き強きを強きと向くは士卒の勇怯を
猶豫しやう。あつては弱き弱きを向くは人教を
あつては強き弱きを向くは其まじひを
あつては強き強きを向くは其まじひを
あつては強き強きを向くは其まじひを
あつては強き強きを向くは其まじひを
あつては強き強きを向くは其まじひを
あつては強き強きを向くは其まじひを
あつては強き強きを向くは其まじひを
あつては強き強きを向くは其まじひを
あつては強き強きを向くは其まじひを

て勇怯の勢はあつては強弱の形はあつては
あつては強き強きを向くは其まじひを
あつては強き強きを向くは其まじひを
あつては強き強きを向くは其まじひを
あつては強き強きを向くは其まじひを
あつては強き強きを向くは其まじひを
あつては強き強きを向くは其まじひを
あつては強き強きを向くは其まじひを
あつては強き強きを向くは其まじひを
あつては強き強きを向くは其まじひを
あつては強き強きを向くは其まじひを

いとるまはさきかたむく。たもきとつとをんも。ゆや。さ
 おそとらまはし。士卒結ん。そのま。其勢とあ。そのや。を。伝
 む。其人教とあ。中流を。ひ。そのや。その別無勢な
 下。強ゆ。さ。と。海。激水之疾。至於漂石者。勢也。執鳥鳥
 之疾。至於毀折者。節也。故善戦者。其勢險。其後旋勢。如廣
 弩。首如發機。や。そのま。そのま。鼓の拍子。わ。と。と。
 了。合。そのま。そのま。の。わ。と。勢。や。の。舟。の。ゆ。わ。と。と。ま。と。た
 しく。お。れ。わ。れ。と。首。の。激。と。石。の。ま。後。と。漂。と。と。と。と。と。
 心。ま。わ。と。と。と。と。の。は。と。と。と。と。と。と。安流する。あ。は。は。と。
 或。弱。ま。と。と。と。と。た。ら。は。と。と。ま。と。と。と。と。鷹。馬。執。馬。と。と。と。と。此。翅。と。と。と。

即。々に。動。り。と。禽。は。せ。ま。る。お。れ。き。り。と。と。と。と。と。と。の。す。る
 能。る。其。羽。は。ひ。ゆ。れ。ま。と。毀。折。す。る。ま。と。ま。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 考。ら。其。勢。必。險。一。く。其。首。必。旋。一。是。も。所。向。と。ま。と。と。と。と。と。
 は。ま。ら。一。毫。も。軍。法。と。敗。ま。と。ま。と。ま。と。か。く。險。一。と。と。と。と。と。と。と。
 勢。弛。ま。と。の。や。と。日。と。刻。し。と。急。す。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 我。勝。と。
 為。於。ま。の。也。其。勢。弛。ひ。其。首。必。旋。士。卒。倦。怠。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 勢。之。一。と。
 と。ゆ。れ。ま。と。と。と。と。如。發。機。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 了。せん。ま。の。あ。は。良。好。の。り。は。怯。卒。や。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

の將兵銳卒必不竭。老弱運漕して内を罷ると謀
と衝ん中を志す。かき我國は危きをきく。必趙をすして
ゆるく自救む。志すははるき一をす。趙の圍とすとの
やうに。この弊を魏に収まる。やうに。志す大梁を
す。魏師果しく趙を推く。還てけり。趙を撃て
ち。勝利とほき。志す趙を救ひやう。趙を撃て
及せし。魏を攻り形とむ。志す。虚をす。急
迫の勢とす。還て。魏師す。趙をす。序
程さる。事と得く。或あ。志す。及せ。お。い。ひ。と

形とす。わきと。い。の。す。は。り。士卒の。も。わ。る。敵。と。制
す。中。も。書。格。と。わ。る。と。孫。臆。の。魏。を。伐。て。趙。の。困。と
と。あ。く。その。形。勢。を。熟。す。ら。や。志。す。と。は。し。や。孫。臆。も
形。格。勢。格。と。は。し。の。ほ。く。解。る。と。す。と。し。や。形。と
む。敵。必。形。と。す。と。解。と。物。の。と。と。は。敵。必。物。と。せ。れ
と。月。中。と。ほ。ぬ。程。と。の。ほ。く。我。討。中。に。墮。る。と。し。後
十。五。を。わ。す。と。魏。を。韓。を。攻。り。時。韓。告。急。於。齊。と。し。必
回。忌。又。將。兵。や。と。て。志。す。趙。を。救。へ。と。す。と。大。梁。に
赴。き。と。し。魏。將。龐。涓。と。同。く。韓。を。推。く。と。し。程。と。奔
師。と。と。し。と。志。す。と。わ。る。孫。臆。回。忌。と。し。と。晋。の

無事ありし時、勇ありて齊と怯と成り、吾我を以て敵の勢
はよりそく。その勢はより成ると利導して、己より其の國を
引けりて、其はより軍而趨利者、鞭上將とて、其を以て
はより魏と強と成り、其はより軍ありて利を趨く、其を
齊、師魏の境より、其はより一舎す、其はより十萬軍あり、其の
明りより又方電又、其はより二方電や、其はより一舎より其の
減して、軍の強を遺して、其はより其の強を麗涓、齊、師の
後と進くと、其はより其の強を遺して、其はより其の強を
其の強より、齊、師、怯、其はより其の強を遺して、其はより其の強を
入軍之日ありて、士卒、其はより其の強を遺して、其はより其の強を

さきより逃げられんや、其はより其の強を遺して、其はより其の強を
其はより二日の道より一日より、其はより其の強を遺して、其はより其の強を
馬陵より、其はより其の強を遺して、其はより其の強を遺して、其はより其の強を
其はより麗涓と付れ、其はより其の強を遺して、其はより其の強を遺して、其はより其の強を
麗涓は樹より死せんと、其はより其の強を遺して、其はより其の強を遺して、其はより其の強を
す、其はより其の強を遺して、其はより其の強を遺して、其はより其の強を遺して、其はより其の強を
其はより其の強を遺して、其はより其の強を遺して、其はより其の強を遺して、其はより其の強を
其はより其の強を遺して、其はより其の強を遺して、其はより其の強を遺して、其はより其の強を
其はより其の強を遺して、其はより其の強を遺して、其はより其の強を遺して、其はより其の強を
其はより其の強を遺して、其はより其の強を遺して、其はより其の強を遺して、其はより其の強を
其はより其の強を遺して、其はより其の強を遺して、其はより其の強を遺して、其はより其の強を
其はより其の強を遺して、其はより其の強を遺して、其はより其の強を遺して、其はより其の強を
其はより其の強を遺して、其はより其の強を遺して、其はより其の強を遺して、其はより其の強を
其はより其の強を遺して、其はより其の強を遺して、其はより其の強を遺して、其はより其の強を

魏作ちを破る。龐涓自刎て。孫臏
 子を名をす。けとひく死をくら。龐涓の首を孫臏
 と見あはし。時人の足とくらむ。首をくらむ。や
 ちらば。孫子の戒之戒之出平爾者反平爾者也との語ひ
 了や。ひわらむ。聖賢のまけ。多うひゆる。素
 乞も小人の戒やすく。

首をくらむ。くらむ。多うひゆる。素
 乞も小人の戒やすく。

敵を形をたえさうとす。はと成減して見す。は
 敵必遠と信して。好き樹とす。けと見す。敵必出と察し
 及ら出と察し。六万弩兵を發す。万弩兵を發す。敵自刎
 と死す。一やして敵と勢よのむ。や。敵と料
 下。兵の敵勢を熟せん。や。やわらく。孫臏は後
 一人や。漢の初も。法の中。韓信は
 攻。兵の精。合戦の時。や。其趙王歌を
 攻。時。右。信。山。陵。前。方。は。軍。旅。の。者
 や。敵。同。く。変。化。す。軍。に

也常放やもはつじの時趙兵二十万と號す。漢兵數万より多し。
 以其ときわのよも勢を以て決戰の心をせし。韓信あまよ。
 下く其のよもしむく陣を以て置て。水より背を以て陣す。
 北地より一兵進んず。逐てわたりしむく死す。故よ。
 上の法にらむ。このよもさむく陣死して。殺さるす。とゆ。
 趙軍漢の軍北地より隔るとん。必よ此を用する。とら。
 将く考へず。と多し。たう。我北地の兵ともて將を以
 てと撃つた。必一戰し勝利を得んととえ。ゆる。とえ。
 ともこの傳を以て。とく。わ。ゆ。と。あ。背て陣す。
 した。時。時。わ。ゆ。と。ゆ。と。ゆ。と。ゆ。と。敵も

山にともす。とく。ちよ。幾く。や。と。よ。敵も。と。く。も。形よ
 とわ。と。勢よ。の。せ。し。と。と。け。と。と。わ。ん。以。預。務。と。も。其。務
 け。ぬ。か。と。と。と。と。と。と。と。と。の。介。併。と。と。旗。鼓。と。推。と。と。を。
 く。敵。と。と。と。空。壁。逐。利。と。と。趙。旗。と。披。と。漢。の。右。幟。と。
 多。と。と。趙。軍。北。地。と。奪。ひ。と。と。と。と。と。と。敵。と。形。と。と。
 と。と。自。軍。の。勢。と。と。と。驅。と。と。と。と。と。と。と。と。勇。戰。
 敵。と。と。付。と。と。北。と。斬。と。と。と。と。と。と。と。と。と。孫。臆。と。
 後。身。の。形。勢。と。と。一。合。戰。と。と。と。と。と。と。韓。信。が。し。と。と。
 自。と。と。將。兵。の。體。と。痛。し。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
 ハ。い。は。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。孫。臆。韓。信。の。兵法

孫子孫武の書に考ふる得るを合せてらるるあり。其の
一也。先為不可撓以待敵之可撓也。先為不可撓と云ふは
王万全不敗の形也。敵之可撓と云ふは、必勝不敗の
形也。其機を以てらるる其機を以て決す。其機を以て
先為不可撓と云ふは、淵のありて深く、鯨魚の居るに
ゆゑ、藏於九地之下也。其機を以て撓と云ふは、高くと
敵のありて淺く、雷のよく撃つる、動於九天之上
と云ふ也。忽と云ふは、忽たんと云ふ也。相生と云ふは、虛實相
生の端と云ふ也。其機のありて、忽たんと云ふ也。其機の
ありて、忽たんと云ふ也。其機のありて、忽たんと云ふ也。



るべき事なり。但其機ありと云ふは、其の機ありと云ふは、
一也。孫武の書に考ふる得るを合せてらるるあり。其の
一也。先為不可撓以待敵之可撓也。先為不可撓と云ふは
王万全不敗の形也。敵之可撓と云ふは、必勝不敗の
形也。其機を以てらるる其機を以て決す。其機を以て
先為不可撓と云ふは、淵のありて深く、鯨魚の居るに
ゆゑ、藏於九地之下也。其機を以て撓と云ふは、高くと
敵のありて淺く、雷のよく撃つる、動於九天之上
と云ふ也。忽と云ふは、忽たんと云ふ也。相生と云ふは、虛實相
生の端と云ふ也。其機のありて、忽たんと云ふ也。其機の
ありて、忽たんと云ふ也。其機のありて、忽たんと云ふ也。

兵之詭道

他日強く敵を有るを令せしむるは日暮夜秋霧の疑はば
 之を感服し侍る事も兵法を侍る人も一やの兵也
 大らと松茂回家の流しを兵の在實終終中を懐く
 此も生れく形勢するの河法中を及る兵をく敵料
 王操あると割きらるるやるまうの如くきやうまうして思ひ
 侍るに敵の術を察するに世は侍る兵の事なり
 之を察するに多し兵を思ひ侍るは形勢を審す
 智謀をもたぬは仁義の兵もわらぬや聖賢の

道中をすしうり多しひあやうし是は侍るまうまう
 下りまうよ幾多事の中を兵を聖人の術をわらぬ
 権通るにやむをけし仁義を割する権通るにしてハ
 兵のひるまう道中をくはく兵を別居の事や如く
 此ら道中をくはくは古く古今兵の是回わらす
 兵の侍るに我爾は料敵割務の術を兵の中を
 本甲冑兵士と兵との兵兵士卒はすやうの如く荀况
 古今の兵を論しては湯武の仁義桓文は割割秦の
 鋭士魏の勇卒齊人の技撃そやまう王志は兵を及
 まはば兵仁義と出まう二軍を同じし力と幾せく

孫子兵法 卷之四

秦之の強は、趙、秦、子、齊、此、父、兄、を、衛、す、と、磔、の、頭、目、を、
押、く、と、あ、く、と、と、仁、義、の、兵、と、い、ふ、桓、文、の、兵、と、信、義、と、も、
下、律、令、と、ま、つ、り、あ、ら、ふ、と、軍、畏、威、と、一、人、も、そ、の、義、を、諭、す、
す、と、い、ふ、と、古、割、の、兵、と、い、ふ、嬴、秦、の、兵、と、い、ふ、と、賞、罰、と、
嚴、し、く、首、級、と、あ、ら、ふ、と、い、ふ、と、古、割、の、兵、と、い、ふ、と、
婦、も、士、卒、と、淬、励、し、て、勇、敢、と、偪、ら、せ、ら、れ、敵、と、赴、く、
我、死、す、と、す、と、あ、ら、ふ、と、其、強、き、と、い、ふ、魏、齊、の、兵、と、比、す、
と、其、優、ま、り、魏、の、兵、と、齊、の、卒、と、莫、か、下、齊、の、兵、と、技、
撃、の、材、と、選、び、一、朝、と、わ、け、ち、て、敵、を、鬪、す、と、其、兵、た、
多、利、を、要、し、と、あ、く、と、死、敵、の、志、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、

秦、此、銳、士、と、い、ふ、と、い、ふ、と、優、者、と、い、ふ、と、一、切、は、武、力、
と、と、取、捨、の、と、す、と、い、ふ、と、兵、は、わ、る、と、い、ふ、と、兵、は、と、古、
割、の、兵、と、い、ふ、と、あ、ら、ふ、と、仁、義、の、兵、と、い、ふ、と、僅、は、兵、と、い、
形、勢、智、謀、と、す、と、い、ふ、と、い、ふ、と、敵、と、料、し、
務、出、と、と、割、し、と、い、ふ、と、仁、義、の、兵、と、い、ふ、と、後、世、の、兵、と、
詐、偽、と、あ、ら、ふ、と、同、と、い、ふ、と、の、む、ら、い、と、い、ふ、と、巧、や、ら、す、と、
あ、く、と、い、ふ、と、敵、を、射、し、と、い、ふ、と、或、と、敵、は、
銳、氣、と、挫、き、或、と、敵、の、情、氣、と、し、と、或、と、あ、ら、ふ、と、
險、阻、と、返、ら、ふ、と、い、ふ、と、敵、を、割、し、と、い、ふ、と、敵、は、
と、と、敵、を、攻、め、ら、れ、と、い、ふ、と、謀、と、い、ふ、と、兵、は、
と、と、い、ふ、と、

敵、を、攻、め、ら、れ、と、い、ふ、と、謀、と、い、ふ、と、兵、は、

宋の時、許と争ひ、我々のわが一將城を圍み、敵を圍む。
 英天の事、争ひ、敵を圍む。我々のわが一將城を圍み、敵を圍む。
 争ひ、敵を圍む。我々のわが一將城を圍み、敵を圍む。
 争ひ、敵を圍む。我々のわが一將城を圍み、敵を圍む。
 争ひ、敵を圍む。我々のわが一將城を圍み、敵を圍む。
 争ひ、敵を圍む。我々のわが一將城を圍み、敵を圍む。
 争ひ、敵を圍む。我々のわが一將城を圍み、敵を圍む。
 争ひ、敵を圍む。我々のわが一將城を圍み、敵を圍む。
 争ひ、敵を圍む。我々のわが一將城を圍み、敵を圍む。
 争ひ、敵を圍む。我々のわが一將城を圍み、敵を圍む。

の世、やま、よま、天下攻伐之法、やま、戦争、やま、
 争ひ、敵を圍む。我々のわが一將城を圍み、敵を圍む。
 争ひ、敵を圍む。我々のわが一將城を圍み、敵を圍む。
 争ひ、敵を圍む。我々のわが一將城を圍み、敵を圍む。
 争ひ、敵を圍む。我々のわが一將城を圍み、敵を圍む。
 争ひ、敵を圍む。我々のわが一將城を圍み、敵を圍む。
 争ひ、敵を圍む。我々のわが一將城を圍み、敵を圍む。
 争ひ、敵を圍む。我々のわが一將城を圍み、敵を圍む。
 争ひ、敵を圍む。我々のわが一將城を圍み、敵を圍む。
 争ひ、敵を圍む。我々のわが一將城を圍み、敵を圍む。

ひ... 其兵勇鋭くして百戦して挫けら。秦の沈士
とて... 中も或回と格や... のをを號令備... 許
本明く... 律と... 極文の... 割... 事
... 六... 代兵... 號... 人... の
... 敵を料... 割... 謀... 事... 其... 中... 事... 其
... 國... 乃... 孫
子此兵者... 也... 號... 遠... 也... 孫

兵と號遠... 一... 孫子も能而示之不能... 敵を料... 割
... 孫子も能而示之不能... 敵を料... 割
... 孫子も能而示之不能... 敵を料... 割
... 孫子も能而示之不能... 敵を料... 割
... 孫子も能而示之不能... 敵を料... 割

孫子兵法 卷之四

孫子

中はたつげ程よ十之節の初はあはく兵と詭道やると
 一以て也し。詭道やると六者道やるとはたつて一之國
 家を治るの及とす。其況や商代の兵家。相傳するは古我
 の事すやると也。或は城を攻め。或は軍此を攻め。又は古我
 此詭と金銀するや。孫子の書とす。人婦やると。た
 めし。事に入あはくも。文章よ。く。き。故は。詭道二字は我
 よ。ま。く。通。世。は。何。と。く。孫子のゆき。を。得。く。ま。や。さ。ら。よ。よ
 下く。其。後。を。守。よ。多。く。と。臆。是。よ。出。く。相。遠。ま。く。事。也。
しちやま 不知高也や
すはら 不忘の君

後教日わさる。法を其身會せり。其日兵の拙述とす。事
 事と取ゆく。其。内。方。中。も。若。く。見。ゆ。兵。は。限。界。を。大。く
 へ。何。も。も。不。測。は。あ。り。て。事。す。る。こ。よ。く。は。結。り。と。あ。ら。ず。思。案
 するは。は。方。は。も。き。や。く。中。と。あ。ら。ず。兵。の。多。く。と。文。は。拘。り。実
 事。は。以。て。あ。ら。ず。と。す。は。は。機。會。を。あ。ら。れ。ゆ。後。悔。す。事。也
 也。其。の。巧。あ。り。て。久。き。の。善。少。く。ゆ。と。は。兵。を。き。て。さ
 しく。其。出。位。其。進。する。は。本。原。わ。り。常。よ。ら。ゆ。ゆ
 あり。氣。を。し。ら。ず。兵。と。本。原。を。失。つ。ゆ。は。氣。を。失。つ。ま。す。れ
 事。物。の。奪。と。ぬ。程。よ。あ。は。け。く。は。氣。を。失。く。後。や。ら。る
 物。中。に。さ。す。は。す。と。や。ら。り。と。孫。子。や。ら。る。よ。や。と。生。す。と

如ひ給ふもいふ事さうやくて俄にすやうにすまはる
 せき新さうやくに給ふ事よあく狼狽しく多しおそ
 きものさうやく却てふ事此害ともおそし。三代法儀此家
 よわら若老の武長と云ふもの。この兵隊の世と仰ぐ。此
 けいこうのゆかりもいふ。後此場は傳へ其處
 なる事他人のふきま中におし。新加屋におし。其先
 従後此場の家よ信し。若おとく。後中。この従後也
 の家光は堀監物やと名わら若お中。監物二代あふ二代監物。其
 中争ひて最上は満中。長十五年正月後寺直寺
 中の監物も人監物直政も。この人従後也依之の郎中。同書り
 中。この人けいけい。従後也。是れ若お中。この人けいけい

飛く事よきや。毎くと従後也も按わらせし。事。監物は
 このけいけいも一。あふ事と彼若とまを信しけり。た
 ち。信したる士は徳と申す。折とも。後日は右へ。士も監
 物の遊く。其日の事よ。いふと。日書といひ。あふ事と
 いひ。我も。この人けいけい。と。これゆひ。この人けいけい。と。
 の。此は。後。中。の。事。よ。あふ。事。と。いひ。わ。ひ。あ。ふ。事。
 子。事。あ。ふ。事。よ。う。や。あ。ふ。事。と。いひ。や。若。と。く。武。長。其
 事。よ。あふ。事。と。いひ。や。う。あ。ふ。事。と。いひ。其。事。と。いひ。中。の。是。信
 中。の。事。と。いひ。若。と。いひ。若。と。いひ。其。事。と。いひ。中。の。是。信
 中。の。事。と。いひ。若。と。いひ。若。と。いひ。其。事。と。いひ。中。の。是。信

中くは向後此の場中もやうくはあり。今とて人より取
事には此も傳文としてあり。若し此の事も何れか
は信奉しし時、此の條中も猶も自ら此の事終つて自ら
やうにしつゝ、其の事も此の條中も自ら此の事終つて自ら
の事も是れ此の事終つて自ら此の事終つて自ら
も、家老ら此の事も自ら此の事終つて自ら
高き此の事も自ら此の事終つて自ら
あつた事も自ら此の事終つて自ら
月比滿徳郷黨篇と續く君在とて、此の事終つて自ら
と。此の事終つて自ら此の事終つて自ら

與く不志向君也とも釈し、此の事終つて自ら
とて、此の事終つて自ら此の事終つて自ら
わつた事も自ら此の事終つて自ら
きつて、横渠の條、此の事終つて自ら
終つて、自ら此の事終つて自ら
君は危後、君は侍坐する時、此の事終つて自ら
監物とて、自ら此の事終つて自ら
やうに、自ら此の事終つて自ら
やうに、自ら此の事終つて自ら
大敵なりとて、自ら此の事終つて自ら

翁として著し事少く今の子老聖賢其書と續く
やまゝの義理の全被として出さるるに命後と曰
と書し何れも起るの義とわく身は借らるるに付くは
是も巧みなりと云ふは其の如くは其の如くは其の如く
志く一己の足付るるを以て是悟と決して直に其の
一の端の其義と云ふは其の如くは其の如くは其の如く
其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
も其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
中く其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
之寛水の如くは其の如くは其の如くは其の如くは其の如く

畢定して宿任せしむるは其は井伊掃部政直者
一代之元老少くおせしむるは其は井伊掃部政直者
の身少く特恩と云ふは其の如くは其の如くは其の如く
極と云ふは其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
らゆふも如くは其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
あまは掃部政直感して其の如くは其の如くは其の如く
らゆふも如くは其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
切やうらふと云ふは其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
後世其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは其の如く
と云ふは其の如くは其の如くは其の如くは其の如くは其の如く

油乃大敵やいふ事定くうきあらし也。其は傳授の
まじけ一言少くも必以高きを以てしむるべし。此
の由の義を即位のころ也。大平と云ふ。管絃あり
はくは烟と云ふ。万世傳ふべき返わすやと同治の
ち云ふ。傳ふべき。其言丹書はわすれし。一聞して能く
齊戒し終るやわすれし。其言齊戒端冕して東面
して立給ふ。其時ち云ふ。西面して丹書の之を去る。其
のちくく。敬勝怠者吉。怠勝敬者滅。義勝欲者從。欲
勝義者凶。今油乃大敵の傳。鄙諺やもつ。丹書は戒は叶
ふ。油乃を去る。法之事を警る。油乃のわすれし。八難也。

志をあらわす事少くも。志のまじき事少くも。ぬれよ。女の鏡と等
雨は雨にして。あまらざる。むね人なり。あまらざる。油乃
て。其と云ふ。福徳と云ふ。すれ。臍と云ふ。あまらざる。じ
掃給ふ。考へ。油乃と云ふ。掃給ふ。て。身と云ふ。けぬ。い。ま
書。け。事の管。要。あ。め。と。云。う。る。あ。よ。あ。の。鏡。と。大。切。の。事。
や。て。依。濃。も。や。傳。う。ら。ま。う。や。の。も。按。解。の。識。わ。り。は。水。
あ。く。ら。い。く。く。わ。る。き。其。と。わ。ら。さ。は。よ。い。ま。ま。氏。年。月。
と。定。め。其。人。の。盛。服。を。せ。う。ま。う。く。傳。授。せ。ら。ま。う。も。い。の。
ち。云。平。の。丹。書。を。去。る。は。投。き。し。る。新。わ。り。か。く。わ。る。ハ
其。事。將。し。の。あ。と。將。多。き。ハ。其。伝。授。ら。し。其。伝。授。ら。し。

後醍醐天皇 卷之四

二二二

一、さういふやうな職とあり、さばくを効とあつて、後
 敏事功ありと云ふゆゑも、事あるは、食祿をちやく、事実
 常より厚き下情を塞ぎ、政弊民瘼もさへ、
 起るをいし、そよもつて、兵を限らば、治世共政も、
 世よりやして巧まざるをせむ、諸君、
 候の蜀は、はる、ちか入相として、内外の任とあつて、高世の
 材とせむ、月、月、月、法とせむ、衆思の益とあつ
 め、僚佐の練と求む、月、月、月、地、處、事、
 知り、其、魏と、我、必、務、
 のと、其、益、列、と、討、す、七、張、亡、會、
 六、五、五、獲、心、服、
 六、五、五、獲、心、服、

て天威とん、その神速するを、想ひ入る、其、後、出、所、表、
 よつ、劉、繇、王、朗、名、據、州、郡、論、安、言、計、動、引、聖、人、群、
 疑、滿、腹、衆、疑、塞、胸、今、歲、不、戰、明、年、不、征、使、孫、策、坐、大、
 遂、并、江、東、巧、ま、此、害、を、禱、す、
 侯の度量規模、
 孫、策、の、拙、述、巧、久、此、治、最、軍、國、此、龜、鑑、
 侯、
 孫、策、も、亦、く、傑、
 孫、策、



鮎島津氏